

令和 7 年度森林土木技術（青年部）研修会

～（一社）名古屋林業土木協会創立 60 周年記念講演会～

1 開催主旨

近年の気候変動の影響により、全国各地で同時多発的に発生する集中豪雨など、毎年、甚大な山地災害や林道被害が発生している。また、昨年発生した能登半島地震による大規模山地災害や、切迫する南海トラフ地震等により、大規模災害の発生リスクはこれまでにない高い状態になってきている。

森林整備・治山事業は、安全で安心して暮らせる社会を支えるために、災害復旧対策はもとより、事前防災・減災を目的とした災害に強い森林づくりによる「緑の国土強靱化」の一層強力に推進していくことが求められており、会員企業の使命でもある「国民の安全・安心の確保」に貢献するとともに、企業の適正な利潤の確保に向けた活動をさらに進めるための方策などについて学びます。

2 開催日時：令和 7 年 10 月 20 日（月） 午後 1 時 30 分～午後 4 時 30 分

3 開催場所：名古屋市 「ウインクあいち」 1103 会議室

4 聴講者：JAFEE-CPD 会員、主催者・提供機関等の会員、
その他一般 最大 100 名まで

5 参加費：JAFEE-CPD／提供機関等の会員 2,000 円
その他一般 3,000 円

6 具体的なカリキュラム

講演① 演題：『森林・林業の現状と中部管内国有林の取組』（13:30～14:30）

講師：森谷 克彦 林野庁 中部森林管理局長

趣旨：近年頻発する山地災害等を踏まえ、森林の国土保全機能の維持向上の重要性や、花粉症対策としての森林整備を通じて国産材の需要拡大と安定供給の取り組みなど最近の森林林業の情勢について講話いただく

講演② 演題：『森から持続可能な未来を考える』（14:40～16:40）

講師：洪澤 寿一 農学博士

趣旨：持続可能な社会の実現に向けて、森林文化の教育、啓発を通じて人材の育成や地域づくりの取り組みから、日々の暮らしの中からもともに考え行動するきっかけとなるような講話をいただく

7 主催者 公益社団法人森林・自然環境技術教育研究センター
〃 一般社団法人名古屋林業土木協会

令和7年度森林土木技術(青年部)研修会

(一般社団法人名古屋林業土木協会創立60周年記念講演会)

とき: 令和7年10月20日(月)

<受付開始13時00分>

会場: 『ウインクあいち』(愛知県産業労働センター)「1103会議室」

講演Ⅰ 13:30～ 演題 『森林・林業の現状と中部管内国有林の取組』
講師 森谷 克彦 林野庁 中部森林管理局長

講演Ⅱ 14:30～ 演題 『森から持続可能な未来を考える』
講師 渋澤 寿一 農学博士

講演終了 16:30

定員: 100名(青年部員、各委員等、現場技術者、一般聴講希望者)

※定員に達し次第締め切ります。

講師プロフィール



渋澤 寿一 農学博士

1952年生まれ。国際協力事業団専門家としてパラグアイに赴任後、長崎オランダ村、ハウステンボスの役員として、企画経営に携わる。NPO法人共存の森ネットワーク理事長。全国の高校生100人が「森や海・川の名人」をたずねる「聞き書き甲子園」の事業や、各地で開催する「なりわい塾」など、森林文化の教育、啓発を通じて、人材の育成や地域作りを手がける。岡山県真庭市では木質バイオマスを利用した地域づくり「里山資本主義」の推進に努める。明治の実業家・渋澤栄一の曾孫。



森谷 克彦 林野庁 中部森林管理局長

1965年生まれ。山形大学農学部林学科卒。1988年林野庁I種採用。1989年名古屋営林支局小坂営林署濁河担当区主任、函館営林支局黒松内営林署長を経て、林野庁経営課特用林産対策室長在任中は唯一『食』を扱う部門として各産物振興支援のほか、東日本大震災後の放射能汚染に対する各種支援、日中農産物交渉、ブータン輸出貿易支援(マツタケ)などに従事、林野庁研究指導課長在任中には森林に関する科学技術政策・施策全般を統括、その後(独)森林研究・整備機構理事を経て2024年現職就任。今年6月には20年に一度の伊勢神宮式年遷宮に伴う御杣始祭(みそまはじめさい)が木曽と東濃地域の国有林で執り行われ、使用される大径ヒノキをこの両地域から供給した。

■主催者・お問い合わせ先

一般社団法人名古屋林業土木協会 事務局

Tel.052-683-6165